

関西経済レポート(3月号)

- ➡ 1月の鉱工業生産指数は前月比+7.8%と2カ月連続の上昇。生産は回復している。
- ➡ 2月の輸出額は前年比+2.5%と24カ月連続のプラス。輸入額は同+10.1%と2カ月ぶりの増加。結果、貿易収支は-362億円と2カ月連続の赤字。収支幅は前年から870億円悪化し、赤字に転じた。
- ➡ 2月の消費者態度指数は3カ月連続で前月から改善。同月の景気ウォッチャー現状判断DIも3カ月連続の改善。春節もあり訪日外国人消費が改善に寄与。消費者心理に改善の動きがみられる。
- ➡ 2月の大型小売店販売は8カ月連続の前年比プラスで改善。百貨店、スーパーともに伸びは前月から幾分加速。
- ➡ 2月の新設住宅着工戸数は6カ月連続の減少。マンション契約率は41カ月ぶりに70%を下回った。
- ➡ 2月の関西の有効求人倍率は、3カ月連続で前月比横ばい。卸・小売、医療・福祉で新規求人数が増加したものの、宿泊業・飲食サービス業で減少し、結果、新規求人倍率は低下。失業率は非労働力人口の増加により、小幅低下となった。
- ➡ 2月の公共工事請負金額は前年比-18.3%と4カ月連続の大幅マイナス。1月の建設工事は前年比+1.4%と33カ月連続のプラスも、伸びは10カ月連続で1桁。
- ➡ 2月の中国の製造業購買担当者景況指数は、2カ月ぶりに前月から改善したが、2カ月連続で50を下回っている。

※「近畿」「関西」は、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山の2府4県。

※本レポートは、一般財団法人アジア太平洋研究所

鉱工業生産、大型小売店販売額のみ、福井を含む2府5県。

“Kansai Economic Insight Monthly”と連携しています。

～ 関西経済のトレンド ～

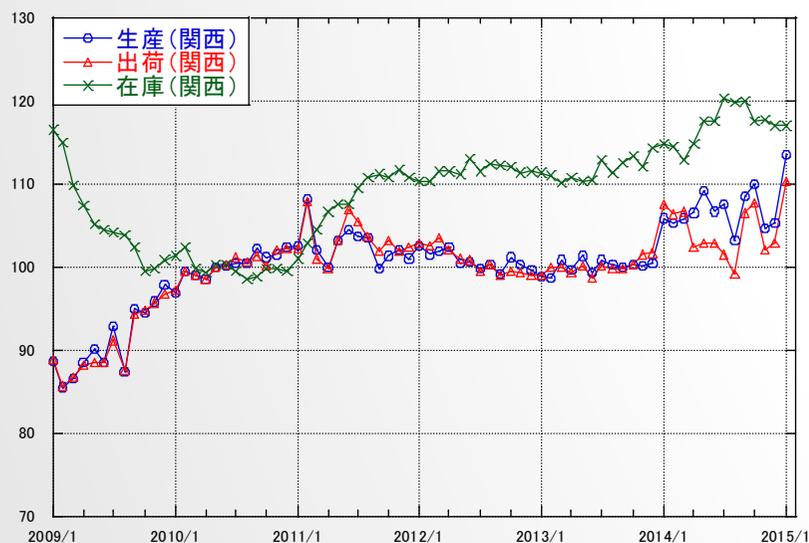
	2014年											2015年	
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
生産	↓	↑	↑	↓	↑	↓	↑	↑	↓	↑	↑	/	
貿易	↓	↑	→	↓	↑	→	→	↑	→	↑	↑	↓	
センチメント	↓	↓	↑	↑	↑	↓	↓	↓	↓	↑	↑	↑	
消費	↑	↓	→	→	→	↑	↑	↑	↑	↑	→	↑	
住宅	→	↑	↓	→	↓	↑	↓	↓	↓	↓	↓	↓	
雇用	→	→	↑	→	→	→	→	↑	↑	↑	→	→	
公共工事	↓	↑	↑	→	→	→	↓	↑	↓	↓	↓	↓	
中国	→	→	→	↑	↑	↓	↑	→	↓	↓	↓	→	

～目次～

生産	1
輸出入	2
消費者センチメント	3
個人消費・住宅	4
雇用	5
公共投資	6
中国経済動向	7

～生産～

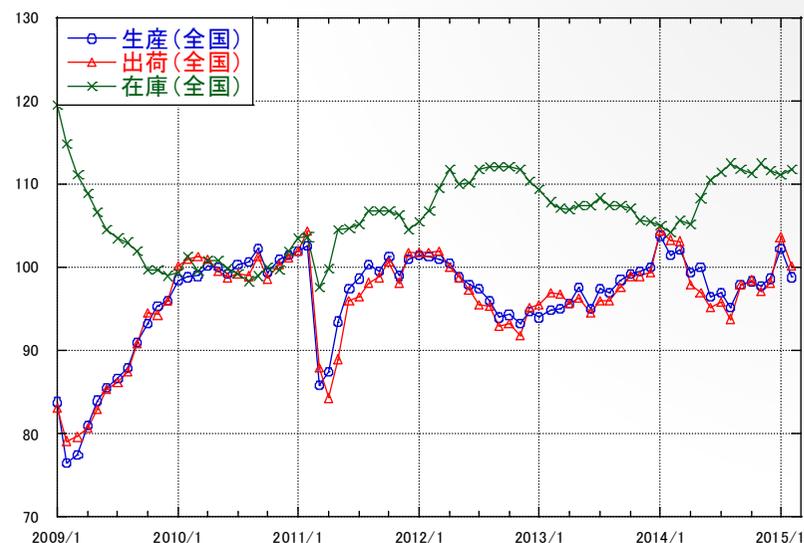
鉱工業指数の推移(近畿・2015年1月まで), 2010年=100



(出所) 近畿経済産業局「近畿経済の動向」

- 関西における1月の鉱工業指数(確報値: 季節調整済)は、生産は113.6で前月比+7.8%、出荷は110.4で同+7.3%と伸びが大幅に増加し、いずれも2カ月連続の上昇。一方、在庫は117.1で同横ばいとなった。
- 業種別にみると、はん用・生産用・業務用機械(同+17.5%)、電気機械(同+17.7%)、食料品・たばこ(同+21.5%)等を中心に幅広い業種が増産となった。
- 生産指数は速報値より上方修正され、大幅増産となった。生産は回復しているが、2月の全国速報値では減産となっており、今後の動向が注視される。

鉱工業指数の推移(全国・2015年2月まで), 2010年=100

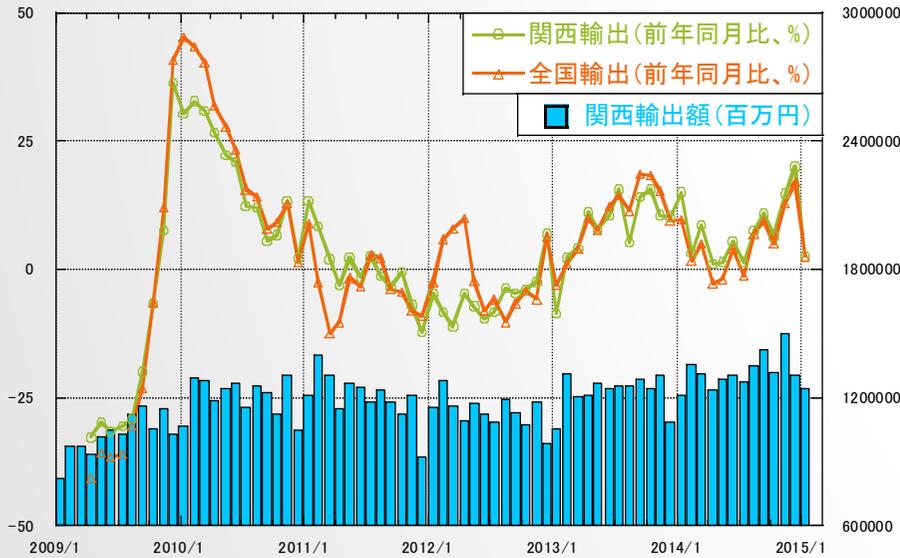


(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

- 全国における2月の鉱工業生産指数(速報値、季節調整済)は98.9となり前月比-3.4%、出荷は100.2で同-3.4%といずれも3カ月ぶりの下落。在庫は111.8で同+0.5%と3カ月ぶりの上昇となった。
- 業種別にみると、はん用・生産用・業務用機械(同-5.6%)、輸送機械(同-3.6%)、電子部品・デバイス(同-7.4%)等が減産となった。一方、石油・石炭製品(同+1.8%)、パルプ・紙・紙加工品(同+0.4%)は増産となった。
- 製造工業生産予測調査では、3月は前月比-2.0%と減産の予定であるが、4月は同+3.6%と増産の見込みであり、生産の回復には時間を要する。

～輸出入～

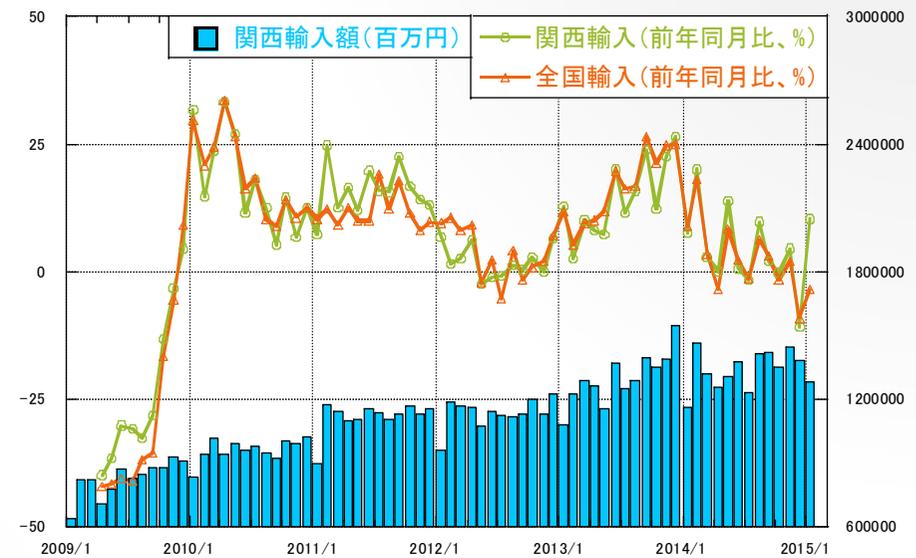
輸出動向 (右: 輸出額、左: 前年同月比) (2015年2月まで)



(出所)大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料:近畿圏」

- 関西2月の輸出額(速報値)は1兆2,425億円と、2月の最高額を更新した。前年同月比+2.5%と24カ月連続の増加。
- 財別に見れば、前年比輸出増加に主に貢献したのは、半導体等電子部品、通信機であり、いずれも2月の最高額を記録。一方、有機化合物、鉱物性燃料は減少となった。
- 全国2月の輸出額(確報値)は5兆9,414億円となり、前年同月比+2.5%と6カ月連続の増加。財別に見れば、自動車、半導体等電子部品、金属加工機械等の輸出が増加した。
- ちなみに、今月の税関長公示レートベースは118.12円と前年同月比14.9%の円安であった。

輸入動向(右: 輸入額、左: 前年同月比)(2015年2月まで)

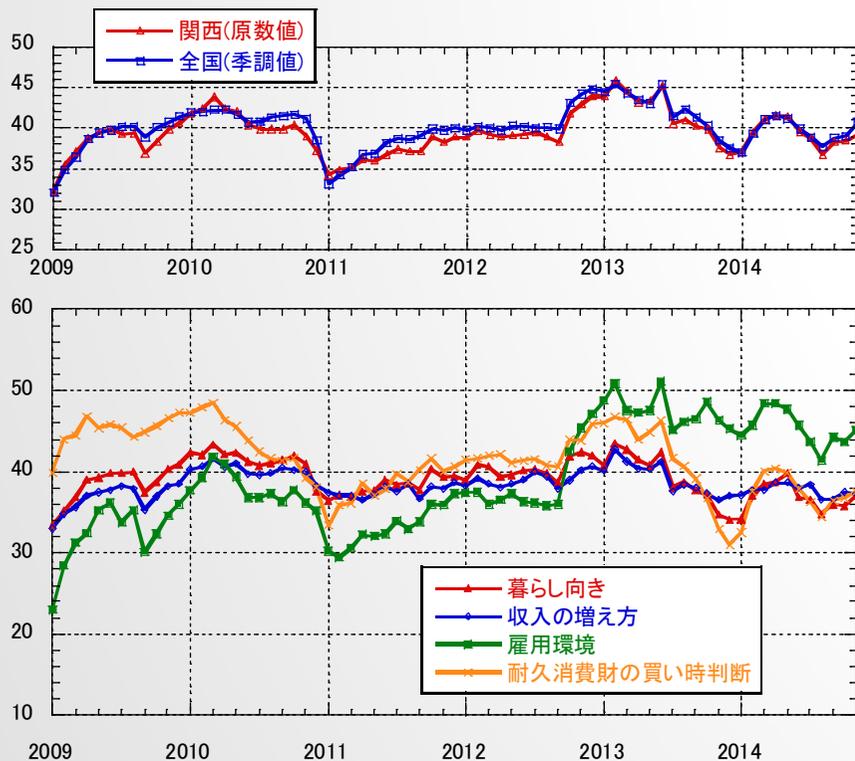


(出所)財務省「貿易統計」

- 関西2月の輸入額(速報値)は1兆2,786億円、伸びは前年同月比+10.1%と2カ月ぶりの増加。
- 財別に見れば、衣類及び同付属品(2月最高額)、半導体等製造装置(2月最高額)等が増加した。一方、原油及び粗油、石油製品は減少した。
- 全国2月の輸入額(速報値)は6兆3,666億円、前年同月比-3.6%と2カ月連続の減少。財別に見れば、原粗油、石油製品、液化石油ガス等の輸入が減少した。
- 結果、関西の貿易収支(速報値)は-362億円と2カ月連続の赤字。収支幅は前年から870億円悪化し、赤字に転じた。全国の貿易収支(確速値)は-4,250億円と32カ月連続の赤字も、赤字幅は同-47.3%縮小した。

～消費者センチメント～

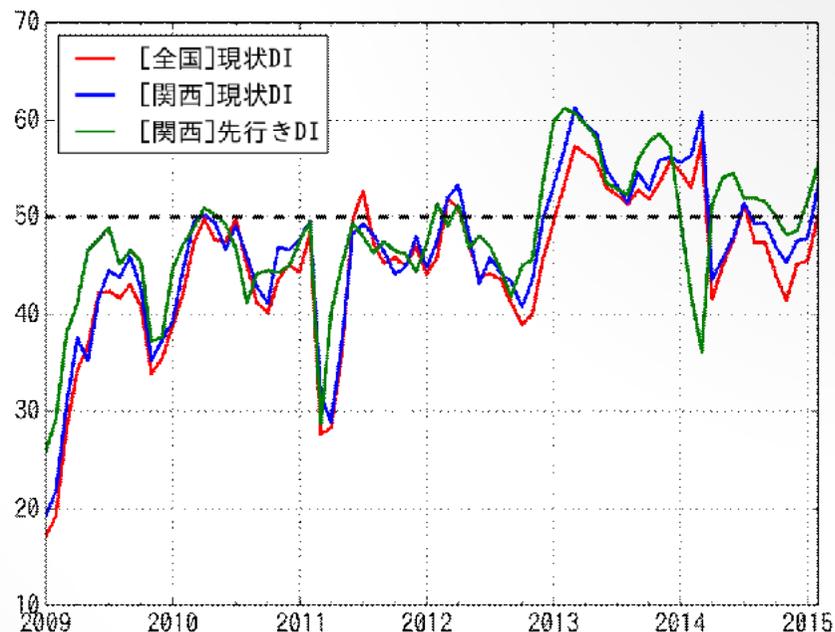
消費者態度指数(2015年2月まで)



(出所)内閣府「消費動向調査」

- 関西の2月の消費者態度指数(原数値)は前月比+0.8ポイントの39.3と、3カ月連続の改善。全国(季節調整値)でも同+1.6ポイントの40.7と3カ月連続で改善している。消費者心理に改善の動きがみられる。
- 関西で同指数の構成項目をみると、「暮らし向き」が同+1.3ポイント、「雇用環境」が同+1.5ポイントと、いずれも2カ月ぶりに改善に転じている。「耐久消費財の買い時判断」も同+0.8ポイントと3カ月連続で改善。一方、「収入の増え方」は同-0.3ポイントと3カ月ぶりに小幅悪化している。

景気ウォッチャー調査(2015年2月まで)

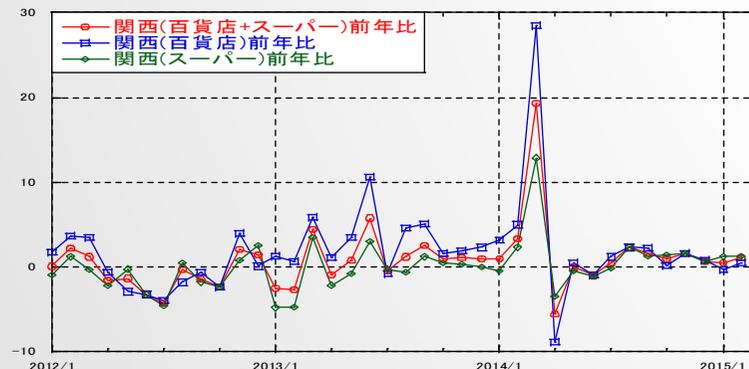
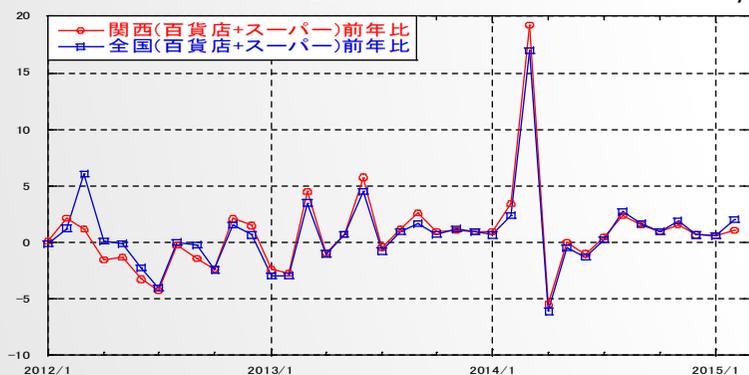


(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」

- 関西の2月の現状判断DIは前月比+5.5ポイント大幅上昇し53.3となった。3カ月連続の改善で、昨年7月(51.4)以来7カ月ぶりに50を上回った。春節など訪日外国人の消費拡大がセンチメント改善に寄与したようである。全国も同+4.5ポイントと3カ月連続で改善し50.1となった。
- 先行き判断DIは、関西では55.5と前月比+3.9ポイントの上昇。原油相場の低下による好影響や賃上げへの期待から、3カ月連続の改善となった。全国は53.2となり、同+3.2ポイントの改善。3カ月連続で改善している。

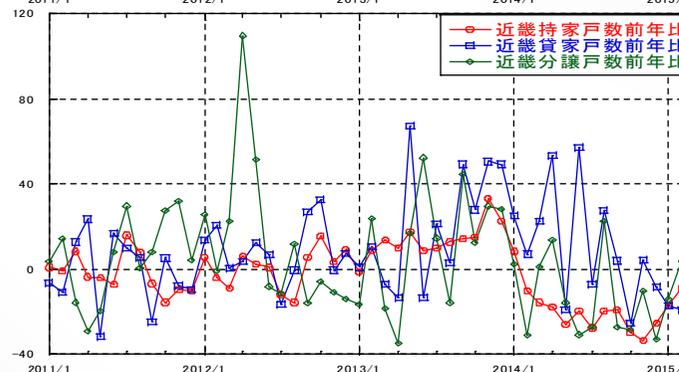
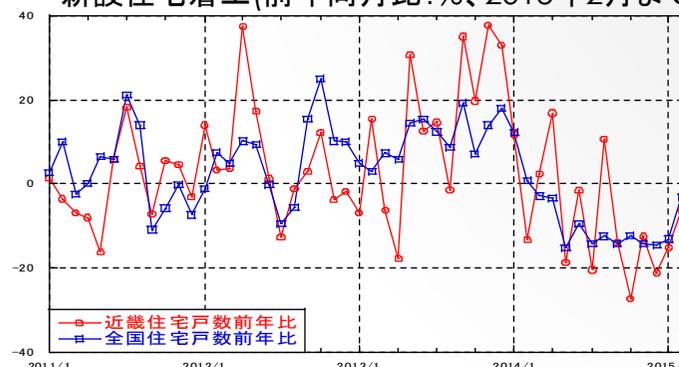
～個人消費・住宅～

大型小売店販売額(前年同月比:%、2015年2月まで)



(注) 福井県を含む。
(出所) 経済産業省「商業動態統計」

新設住宅着工(前年同月比:%、2015年2月まで)



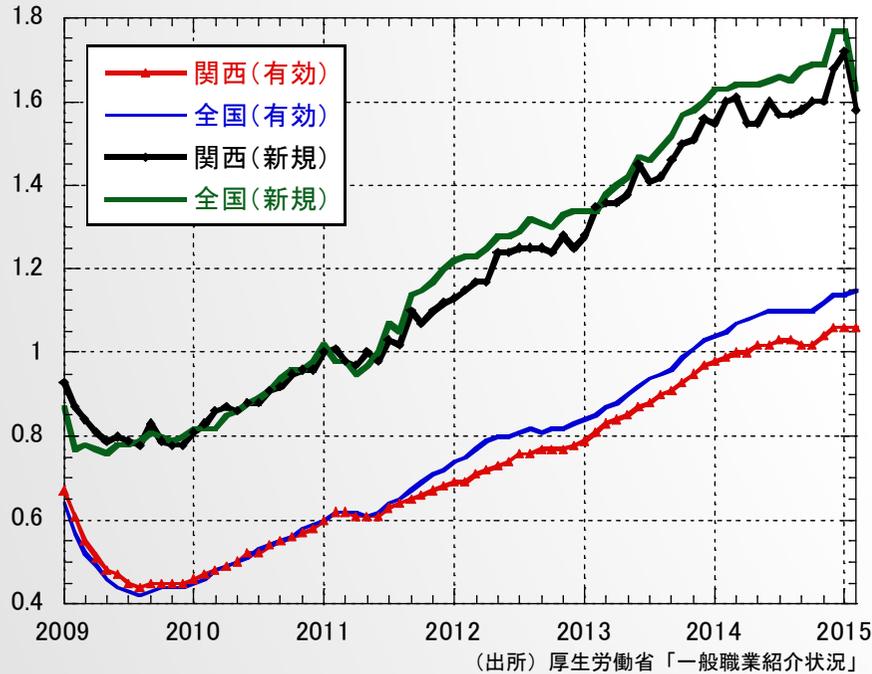
(出所) 国土交通省「住宅着工統計」

- 関西2月の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額(全店ベース)は、前年同月比+1.1%と8カ月連続で増加している。
- 百貨店は同+0.6%と2カ月ぶりのプラス。
- スーパーは同+1.3%と7カ月連続のプラス。
- 全国の大型小売店販売額(全店ベース)は同+2.0%と8カ月連続で増加し、伸びは前月(同+0.6%)から加速した。
- 関西、全国ともに消費は緩やかな改善を続けている。

- 関西2月の新設住宅着工戸数は9,002戸。前年同月比-6.2%と6カ月連続の減少も、減少幅は前月(同-15.0%)から縮小した。
- 全国は同-3.1%と12カ月連続の減少。
- 関西の住宅着工を利用関係別にみると、持家は同-8.7%と13カ月連続の減少。貸家は同-19.0%と3カ月連続の大幅減少。
- 分譲は同+4.1%と6カ月ぶりの増加となった。
- なお、2月の関西マンション契約率は69.9%(季節調整値、APIR推計)となった。好不調の目安となる70%を41カ月ぶりに僅かに下回った。住宅市場は厳しいが、駆け込み需要の反動減は幾分和らぎつつある。

～雇用～

有効求人倍率の推移（季節調整値、2015年2月まで）



完全失業率の推移（季節調整値：%、万人、2015年2月まで）



関西2府4県有効求人倍率(2015年2月)

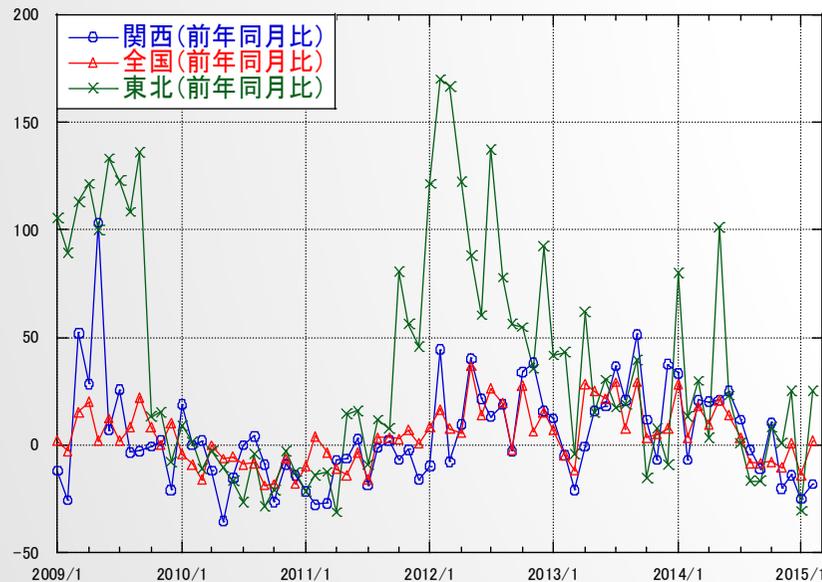
	全国	関西	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
2月	1.15	1.06	1.00	1.09	1.15	0.94	0.88	0.98
1月	1.14	1.06	1.00	1.11	1.15	0.95	0.90	1.00

- 2月の関西の有効求人倍率は、1.06倍と3カ月連続で前月比横ばいとなった。全国は1.15倍と前月から+0.01ポイント上昇し、7カ月ぶりの改善。雇用情勢は好調を維持。
- 府県別(受理地別)にみると、和歌山県で-0.02ポイント低下し、2カ月ぶりに1倍台を下回った。
- 2月の関西の新規求人倍率は、1.58倍と前月比-0.14ポイントと大幅に低下し、**2014年7月以来7カ月ぶりの低下**。卸・小売、医療・福祉で新規求人数が増加したものの、製造業、宿泊業・飲食サービス業で減少した。全国は1.63倍と前月比-0.14ポイントと**2014年8月以来6カ月ぶりの低下**。

- 2月の関西の完全失業率(季節調整値：APIR推計)は3.8%で前月(4.0%)から-0.2%ポイント低下し、2カ月ぶりの改善となった。非労働力人口が増加したことが失業率を押し下げた。
- 関西の完全失業者数(季節調整値：APIR推計)は39.3万人で前月(42.7万人)から-3.4万人減少した。
- 全国の完全失業率(季節調整値)は3.5%となり、前月(3.6%)から-0.1%ポイント低下。理由別にみると、非自発的な離職・自発的な離職がともに減少し、新たに求職する人が減少(非労働力人口の増加)したことによる。
- 全国の15～64歳の就業率(原数値ベース)をみると、72.7%と前月(72.5%)と比べて幾分上昇した。性別では、女性の就業率は63.7%と前月(63.5%)と比べて上昇しており、**好調が続いている**。

～公共投資～

公共工事請負額(前年同月比:%、2015年2月まで)

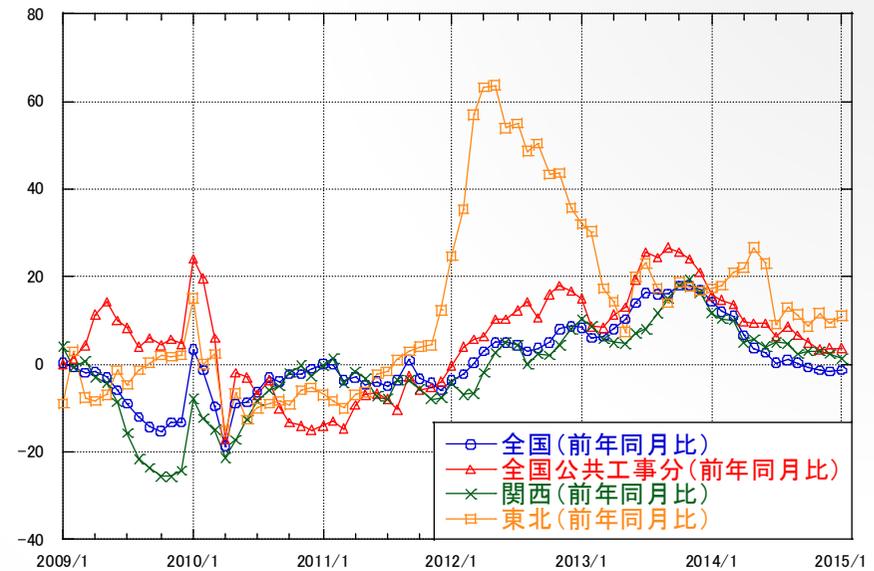


(注)福井県を含む。

(出所)東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

- 2015年2月関西の公共工事請負金額は644億円で前年同月比-18.3%と4カ月連続の大幅マイナスとなった。
- 全国は7,122億円で同+2.3%と2カ月ぶりの増加。
- 東北は1,852億円で同+24.8%と2カ月ぶりの大幅増加となった。
- 季節調整値(APIR推計)で見ると、関西、全国共に2カ月連続で前月から減少となった(関西：同-13.4%、全国：同-0.3%)。
- 全国では僅かに増加となったが、関西では公共工事受注は減速が続いている。

建設工事(前年同月比:%、2015年1月まで)

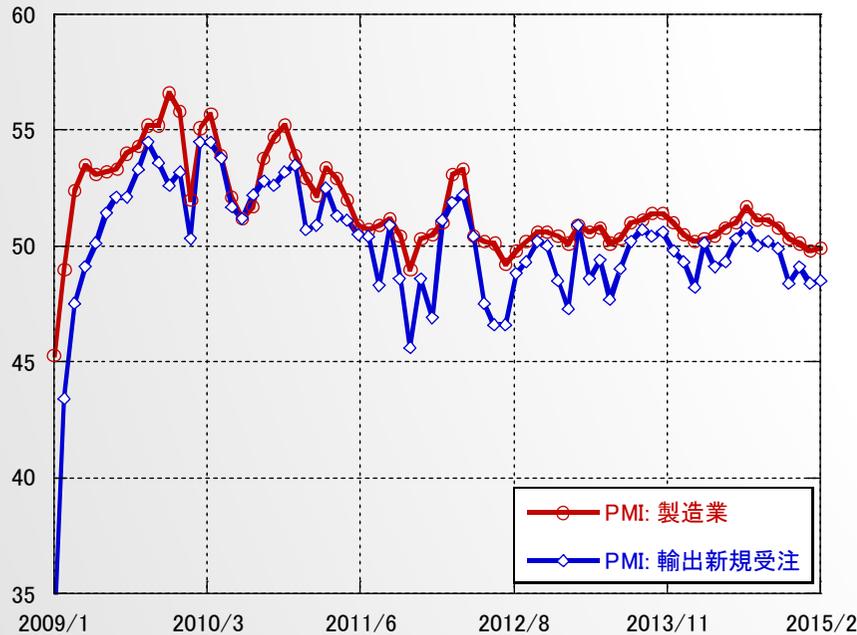


(出所)国土交通省「建設総合統計」

- 関西1月の建設工事は6,008億円、前年同月比+1.4%と33カ月連続の増加も伸びは10カ月連続で1桁となった。
- 東北は5,979億円、同+11.2%と42カ月連続の増加。
- 全国は4兆6,110億円となり同-1.3%と4カ月連続の減少。全国の公共工事は2兆1,881億円で同+3.6%と36カ月連続の増加も、伸びは10カ月連続で1桁にとどまった。
- 公共工事の減速もあり、建設工事の伸びは停滞している。

～中国経済動向①～

製造業購買担当者景況指数 (2015年2月まで:%)



(出所) 中国国家统计局; CEICデータベース

日本との貿易 (前年同月比; 円ベース) (2015年2月まで:%)



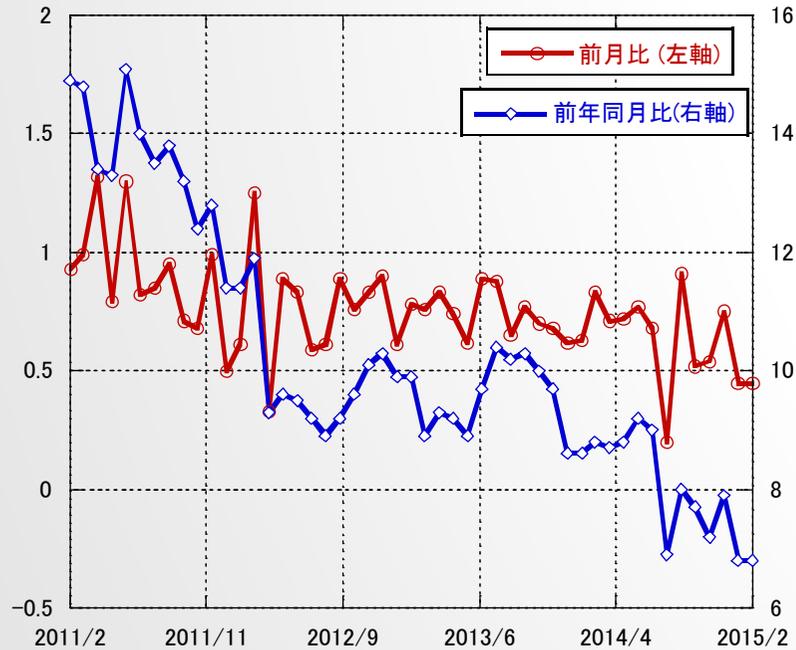
(出所) 中国税関; CEICデータベース (APIR推計)

- 2月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は、49.9となり、前月から+0.1ポイント上昇し、5カ月ぶりの改善。しかし2カ月連続で50を下回った。
- うち、生産指数は51.4と同-0.3ポイント低下し、5カ月連続の悪化。新規受注指数は50.4となり、同+0.2ポイント上昇し、7カ月ぶりの改善。輸出新規受注指数は同+0.1ポイント上昇し、48.5となった。5カ月連続で50を下回っている。また雇用指数は47.8となり、前月から-0.1ポイント低下し、4カ月連続のマイナスとなった。2012年6月以来、33カ月連続で50を下回っている。
- 中国国家统计局は中国の春節の影響によるものと分析しているが、経済成長の更なる減速が懸念されている。

- 2月の中国の輸出額(速報値、ドルベース)は前年同月比+48.3%と大幅上昇し、先月よりプラスに転じた。一方、輸入額は同-20.8%(速報値)となり、4カ月連続のマイナス。
- うち日本への輸出額は同+23.6%となり、7カ月ぶりのプラスとなった。日本からの輸入額は同-14.9%となり、4カ月連続のマイナスとなった。
- 円ベースに換算すると、日本への輸出額は同+43.5%となり、先月よりプラスに転じた。日本からの輸入額は同-1.2%となり、2カ月連続のマイナスとなった。

～中国経済動向②～

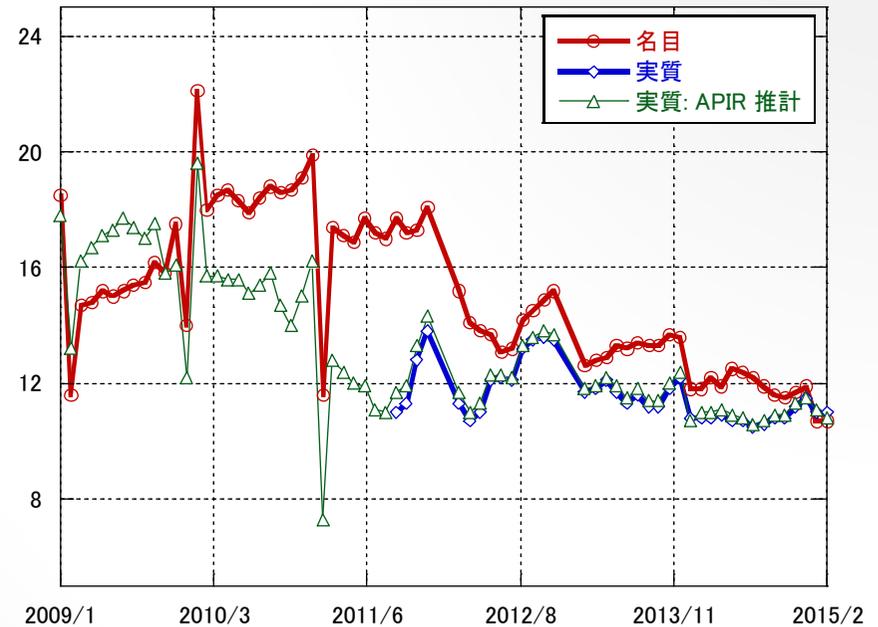
工業生産指数 (2015年2月まで:%)



(出所) 中国国家统计局; CEICデータベース

- 1-2月の工業生産は、前月比+0.5%と、2014年12月から-0.3ポイント低下し、11月以来の減速となった。前年同月比は+6.8%となり、2014年12月から-1.1ポイント低下し、減速に転じた。
- 産業別に見ると、有色金属圧延加工業(同+12.7%)、パソコン・通信設備製造業(同+11.8%)、医薬製造業(同+10.5%)、鉄道・輸送機器製造業(同+10.5%)が高い伸びを示す一方で、鉄鋼などの製錬・圧延加工業(同+3.5%)、専用設備製造業(同+3.1%)、電力・熱力生産・供給業(同+3.1%)等は比較的低調な伸びにとどまった。

社会消費品小売総額 (2015年2月まで:%)



(注) APIR推計値は小売価格指数を用いて推計
(出所) 中国税関; CEICデータベース (APIR推計)

- 1-2月の社会消費品小売総額の成長率は前年同月比+10.7%となり、2014年12月(同+11.9%)から小幅減速した。消費は中国経済成長のエンジンと期待されているが、12月以降減速している。

※関西経済のトレンド 評価基準について

- ・ センチメント：内閣府『景気ウォッチャー調査』の近畿現状判断(方向性)DIが前月比で1ポイント以上の改善は上向き、1ポイント以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- ・ 生産：近畿経済産業局『近畿地域鉱工業生産動向』生産指数(季節調整値)が前月比+0.5%以上であれば上向き、同-0.5%未満であれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・ 雇用：厚生労働省『一般職業紹介状況』有効求人倍率(季節調整値)が前月比で0.01ポイント以上の改善は上向き、変化がなければ横ばい、0.01ポイント以上の悪化は下向きとする。
- ・ 消費：近畿経済産業局『大型小売店販売状況』(全店ベース)が前年同月比で1%以上増加していれば上向き、同1%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・ 住宅：国土交通省『住宅着工統計』新設住宅着工戸数が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・ 公共工事：西日本建設業保証株式会社『公共工事前払金保証統計』公共工事請負金額が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・ 貿易：大阪税関『貿易統計』の近畿圏貿易収支(入出超額)前年同月から500億円以上の改善は上向き、同500億円以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。